

## 萩中美枝書誌

小川正人

- 目次 1 まえがき  
2 著作目録  
3 著書の主要目次  
参考文献

Key Words 書誌 (Bibliography)、アイヌ口承文芸 (Ainu oral literature)、アイヌ文化研究 (Study of Ainu Culture)

## 1 まえがき

萩中美枝 はぎなか みえ

1927（昭和2）年8月7日、北海道日高地方様似村（現様似町）に麴製造業萩中與三治の長女として生まれる。北海道庁立旭川高等女学校（現道立旭川西高等学校）を卒業後、郷里の国民学校で2年間助教諭として勤務。1956（昭和31）年秋、北海道大学文学部助教授（58年3月より教授）・文学博士の知里真志保と結婚、1961年春からNHK札幌放送局嘱託として同局資料室に勤務。同年6月に夫・知里真志保と死別。その後、北海道大学文学部嘱託として知里真志保ノートの整理にあたる。また旭川市立郷土博物館専門職員、北海道教育委員会嘱託などをつとめ、札幌学院大学、札幌大学、北海道東海大学、北星学園大学、北海道教育大学札幌分校（現札幌校）などで非常勤講師として教鞭を執る。日本口承文芸学会、北海道文化財保護協会の理事をつとめた。

2021年4月4日、萩中美枝氏が逝去された。

萩中美枝氏のアイヌ文化研究やアイヌ文化の伝承活動、研究の後継者育成等に対する多大な貢献については、いづれ然るべき方々による整理がなされるものと思う。ここでは、旧道立アイヌ民族文化研究センター開設初年度の「アイヌ文化講座」で講師をつとめていただくなど、文字どおり様々なご指導、ご鞭撻を受けた立場として、萩中美枝氏の業績をつまびらかにしておくべく本稿を編んだ。

萩中美枝氏については、先に『アイヌ文化への招待

女性と口承文芸』（三弥井書店、2007年）の刊行にあたり、石井正己氏（東京学芸大学）との共編により、同年までの萩中美枝氏の著作目録をまとめる機会を得た。また2010年3月、萩中美枝氏の北海道文化賞受賞を記念する祝賀会の開催に当たり、石井氏が『アイヌ文学こぼればなし』（東京学芸大学、2010年）を編まれた際、さきの著作目録の補遺をまとめる機会も得た。本稿は、これら既往の著作目録をもとに、その後公刊された著作や新たに編者が確認できた著作をまとめたものである。

本稿に収録できた文献は約200件に及ぶ。本稿では、萩中氏の功績においても大きな柱である、録音記録、講演・講座、学会口頭発表、講習会講師などを収録の対象としていないが、それでも、著作の表題などを通覧すれば、萩中氏の多岐にわたる功績の一端が窺えると思う。

末尾になるが、査読者の方々をはじめ、文献・資料について多くの方々から情報を提供いただいた。そのお陰で、『アイヌ文化への招待』『アイヌ文学こぼればなし』に掲載した目録から、さらに多くを増補することができた。『アイヌ文化への招待』刊行のころ、萩中さんに「著作目録をまとめてみたら、160件もありました」と報告したことがある。「あら、そんなにある？」と少し嬉しそうに、「でも、きつともっとあると思うのよ。私も忘れちゃっているのがたくさんあるけど」とも。確かに、萩中さんの仕事は、もっとたくさん、あった。その蓄積の大きさと拡がりを改めて感じる。

それでも、なお遺漏があるに違いない。もっと早くから着手していれば、と申し訳なく思いつつ、ここまでご協力くださった方々に、改めて深く感謝申し上げる。

凡例

- ・本文は「2 著作目録」及び「3 著書の主要目次」からなる。
- ・「著作目録」には、萩中美枝氏の著作を刊行年月順に配列し、「表題」「所収」「発行」「備考」の4項目を設けた。

- ・「表題」は、単行本の場合は『 』で括り、雑誌・書籍中の論文等は「 」で括って示した。
- ・「所収」は、雑誌・書籍中の論文等について、所収書名（雑誌・新聞等の場合は誌（紙）名）、巻号（または発行年月日）及び掲載ページ（確認できたもののみ）を記載した。
- ・再録のある場合はその旨を「備考」欄に記載した。



写真1 萩中美枝氏  
1956年、山田秀三や知里真志保らと同行した地名調査にて。

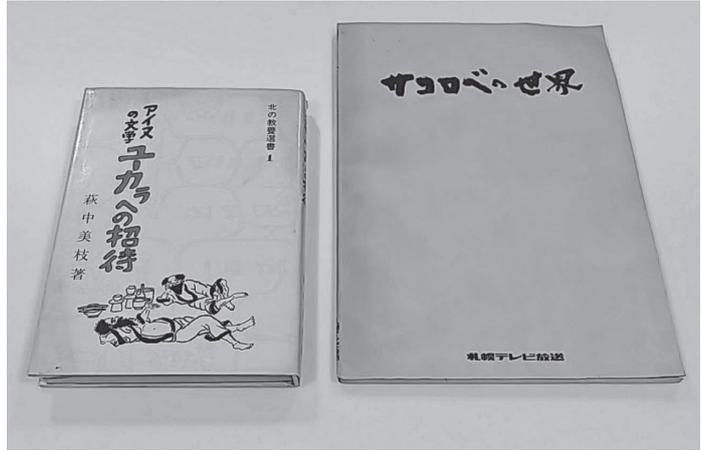


写真2 萩中美枝氏の主な著書より  
『アイヌの文学 ユーカラへの招待』と『サコロベの世界』。

## 2 著作目録

年	月	編著者	表題	所収(巻号)	発行所	摘要、備考
1962	2	知里美枝	「さんべい汁」	『主婦の友』第46巻第2号、197～198ページ	主婦の友社	特集「鍋と汁 50人集」の中の一編。
1964	7	萩中美枝	「ユーカラの世界」ロケのこと」	『北海道人類学協会通信』第3号、10～11ページ	北海道人類学協会事務局	
1967	11	萩中美枝、河野本道	「Aynuの下紐に関する覚書I : Retar-hayによるPonkutのできるまで」	『北海道の文化』第13号、9～19ページ	北海道文化財保護協会	再録：河野本道『装いのアイヌ文化史 : 北方周辺域の衣文化と共に』(北海道出版企画センター、2001年)、表題のローマ字は一部カタカナに改められている。また末尾に「本編後記」として「内容を一部加除訂正した」とあり。
1968	6	萩中美枝	「ホエについて」	『北海道人類学協会通信』第11号、43～44ページ	札幌医科大学第二解剖学教室	
1968	7	萩中美枝	「焼いてしまったルイベ」	『北海道鮭商新聞』7月23日付	北海道鮭商環境衛生同業組合	
1968	8	萩中美枝	「鳥の舞」	『さっぽろ まんてん』第106号、40～41ページ	まんてん社	
1968	10	萩中美枝	「あら・どうも」	『さっぽろ まんてん』第108号、36～37ページ	まんてん社	
1968	11	萩中美枝	「ホーチブ」	『さっぽろ まんてん』第109号、34～35ページ	まんてん社	
1969	1	萩中美枝	「火尻座」	『さっぽろ まんてん』第111号、40～41ページ	まんてん社	
1969	2	萩中美枝	「素朴な操」	『さっぽろ まんてん』第112号、34～35ページ	まんてん社	
1969	3	萩中美枝	「Kじじのこと」	『さっぽろ まんてん』第113号、40～41ページ	まんてん社	
1969	5	萩中美枝	「エンジュの枝」	『さっぽろ まんてん』第114号、20～21ページ	まんてん社	
1969	9	萩中美枝	[表紙説明]〔鶴川川口の木幣〕	『北海道の文化』第17号、表紙裏	北海道文化財保護協会	アイヌ文化特集。
1969	9	萩中美枝	「閉ざされた歴史(1) : あるノート」	『北海道の文化』第17号、10～13ページ	北海道文化財保護協会	アイヌ文化特集。

年	月	編著者	表題	所収(巻号)	発行所	摘要、備考
1969	11	萩中美枝	「アイヌ語索引」	伊福部宗夫『沙流アイヌの熊祭』、1～20ページ	みやま書房	「あとがき」の123ページに「萩中美枝氏、出村文理氏にはむづかしい索引の仕事をお願いし」とあり。また索引の「凡例」には「萩中美枝 記」とあり。
1970	3	萩中美枝	「閉ざされた歴史(2) : とけるもの」	『北海道の文化』第18号、10～12ページ	北海道文化財保護協会	
1970	2	萩中美枝	「アイヌ: そのかなしみは今も消えない」	『高1コース』第7巻11号、130～137ページ	学習研究社	
1970	7	萩中美枝	「閉ざされた歴史(3) : 分身」	『北海道の文化』第19号、18～19ページ	北海道文化財保護協会	
1970	9	萩中美枝	「幸恵と真志保」	知里幸恵『アイヌ神謡集』(補訂再版)、巻末6～9ページ	弘南堂書店	所収書は知里幸恵(編)『アイヌ神謡集』(郷土研究社、1923年)の復刻版。1971年再補訂版に再録、また1979年北海道エスペラント協会により所収書のエスペラント語訳発行。
1971	1	萩中美枝	「アイヌ ネノ アン アイヌ」	『コタンの痕跡 : アイヌ人権史の一断面』、45～56ページ	旭川人権擁護委員連合会	
1971	1	萩中美枝	『アイヌ語を学ぶまえに』		市立旭川郷土博物館	ホチキス綴じ、全8ページ。市立旭川郷土博物館アイヌ語講義資料。
1971	4	萩中美枝	「女の生きた道 : アイヌのむかし」	井上靖・野田宇太郎・和歌森太郎(監修)『文学の旅1 北海道』、203～205ページ	千趣会	
1972	1	萩中美枝	「ユーカラに流した涙 : 金田一先生のこと」	『わが北海道』2巻1号、62～63ページ	東京文化センター北海道PRセンター	
1972	2	萩中美枝	「アイヌアナクネピリカ : 知里真志保の残したノート」	『北方文芸』第5巻第2号、12～22ページ	北方文芸社	再録: 木原直彦(著者代表)『北海道文学全集 別巻 北海道の風土と文学』(立風書房、1981年11月)。
1972	3	萩中美枝、河野本道、藤本英夫	「最近の「アイヌ問題」」	『民族学研究』第36巻第4号、319～320ページ	日本民族学会	日本民族学会第10回研究大会報告要旨
1972	5	萩中美枝	「衣食住・生活用具・運搬用具」「天文」「方位」「暦日」	『ブリタニカ国際大百科事典1』、53～56、71、71～72、72～73ページ	TBSブリタニカ	項目「アイヌ」中の「生業」及び「知識」の一部。
1972	5	萩中美枝	「折れたムックリ」	『近代民衆の記録 月報 5 アイヌ』、2～4ページ	新人物往来社	
1972	6	萩中美枝、藤本英夫	「シャモよ本島へ帰れ : 奪われたアイヌの天地」	朝日新聞社(編)『朝日講座 探検と冒険7』、325～336ページ	朝日新聞社	

年	月	編著者	表題	所収(巻号)	発行所	摘要、備考
1972	9	藤本英夫、河野本道、萩中美枝	「日本列島北部の墳墓の方位」	『民族学研究』第37巻第2号、146～147ページ	日本民族学会	第25回日本人類学会日本民族学会連合大会発表抄録
1972	11	萩中美枝	「十月の風」	金田一京助博士記念会(編)『金田一京助先生の思い出』、312～315ページ	三省堂	
1973	5	萩中美枝、其田良雄	「上川地方 石狩川上流筋のアイヌ語地名：その1 ナイダイベ川」	『市立旭川郷土博物館 博物館だより』10号、2ページ	市立旭川郷土博物館	
1973	5	萩中美枝	「旭川のピリカメノコ」	『市立旭川郷土博物館 博物館だより』特輯号、2ページ	市立旭川郷土博物館	
1973	5	萩中美枝、其田良雄	「上川地方 石狩川上流筋のアイヌ語地名：その2 ナイダイベ川の支流」	『市立旭川郷土博物館 博物館だより』11号、2ページ	市立旭川郷土博物館	
1973	9	萩中美枝	「アイヌのオオバユリ (turep) の鱗茎加工」	『民族学研究』第38巻第2号、181～182ページ	日本民族学会	第26回日本人類学会日本民族学会連合大会発表抄録
1973	11	萩中美枝、其田良雄	「上川地方 石狩川上流筋のアイヌ語地名：その3 石狩川」	『市立旭川郷土博物館 博物館だより』12号、2ページ	市立旭川郷土博物館	
1973	12	萩中美枝	「アイヌ語のカナ表記についての試み」	『北海道の文化』第29号、50～58ページ	北海道文化財保護協会	再録：ゆまに書房編集部(編)『アイヌ語考② 音韻・アクセント/語彙1』、ゆまに書房、2001年。
1973	12	萩中美枝	「アイヌのむかし : 女の生活」	『わが北海道』第4巻第1号、8～11ページ	東京文化センター北海道PRセンター	
1974	2	萩中美枝、其田良雄	「上川地方 石狩川上流筋のアイヌ語地名：その4 カムイコタンの左岸下流」	『市立旭川郷土博物館 博物館だより』13号、2ページ	市立旭川郷土博物館	「その5」以降は其田良雄執筆。
1974	8	萩中美枝	「神とまつりと女たち/女のつとめ きびしき国なり『津軽新聞』」	『北海道の発言雑誌 意見』第2号、5～6ページ	北海道意見センター	特集「アイヌ〈文化〉から何を学ぶか」。
1975	6	萩中美枝	「アイヌの伝承文学」	北海道教育庁振興部文化課(編)『遠矢第2チャシ跡遺跡調査報告書』、9～14ページ。	北海道教育委員会	文中に、八重九郎語り(萩中美枝・鈴木輝志採録、八重九郎・萩中美枝訳)による「イノンノイタク祈詞」(10～14ページ)を含む。
1976	9	萩中美枝	〔解題〕〔葛野辰次郎「イザニユ、カムイチェウツ、スネネワ アエイヌ コルオルスベ(鱒鮭あかしと人のお話)」〕	『アイヌ文化』第1号、11ページ	アイヌ無形文化伝承保存会	
1976	9	萩中美枝	「八重さんのサコロベ」〔八重九郎、萩中美枝「八重九郎のサコロベ」第一章〕	『アイヌ文化』第1号、12～20ページ	アイヌ無形文化伝承保存会	「凡例」も萩中筆。

年	月	編著者	表題	所収(巻号)	発行所	摘要、備考
1976	9	萩中美枝(採録、訳)	「サコロベ(人間のユーカラ)」〔八重九郎、萩中美枝「八重九郎のサコロベ」第二章〕	『アイヌ文化』第1号、20～28ページ	アイヌ無形文化伝承保存会	語り八重九郎、訳は八重、萩中、採録は萩中、鈴木輝志。
1976	9	萩中美枝(訳と構成)、八重九郎(伝承)	「ほっかいどうのおはなし」 「かしこい少年と小さくなっ たうさぎ」	『赤ちゃん』1976年10月号、 39～41ページ	ナカ企画	
1976	12	萩中美枝(訳と構成)、八重九郎(伝承)	「ほっかいどうのおはなし」 「中島の子守歌」	『赤ちゃん』1976年12月号、 39～41ページ	ナカ企画	
1977	1	萩中美枝(構成)、八重九郎(伝承)	「ほっかいどうのおはなし」 「鹿のよろいを来た少年 上」	『北の赤ちゃん』1977年1月 号、39～41ページ	ナカ企画	
1977	2	萩中美枝(訳と構成)、八重九郎(伝承)	「ほっかいどうのおはなし」 「鹿のよろいを来た少年 下」	『北の赤ちゃん』1977年2月 号、39～41ページ	ナカ企画	
1977	3	萩中美枝(構成)、八重九郎(伝承)	「ほっかいどうのおはなし」 「白い小犬」	『北の赤ちゃん』1977年3月 号、39～41ページ	ナカ企画	
1977	3	萩中美枝	「解題」〔葛野辰次郎「エカシ シ ホッパ アマ イタウツ (祖先の残し置きし言葉)」〕	『アイヌ文化』第2号、7ページ	アイヌ無形文化伝承保存会	
1977	3	萩中美枝	「神々のユーカラ : とくに 自然神のユーカラについて」〔八重九郎、萩中美枝 「八重九郎のサコロベ」第三章〕	『アイヌ文化』第2号、28～31 ページ	アイヌ無形文化伝承保存会	
1977	3	萩中美枝(採録、訳)	「マツユーカラ mat-yukara (女のユーカラ)」〔八重九郎、 萩中美枝「八重九郎のサコロ ベ」第四章〕	『アイヌ文化』第2号、32～39 ページ	アイヌ無形文化伝承保存会	語り八重九郎、訳は八重、萩中、採録は萩中、鈴木輝志。「あとがき」も萩中筆。
1977	4	萩中美枝(構成)、八重九郎(伝承)	「ほっかいどうのおはなし」 「ブクサの女王」	『北の赤ちゃん』1977年4月号、 39～41ページ	ナカ企画	
1977	6	萩中美枝(著、採録・訳)	「伝承調査」	岡田宏明(編)『カムイエカシ チャン』、22～31ページ	白老町教育委員会	「1地名に関する伝承」「2innono-itak」「3その他の伝承」の3節構成。本文執筆は萩中美枝、「innono-itak」は栃木政吉語り、萩中美枝・鈴木輝志採録、栃木政吉・萩中美枝訳、「その他の伝承」は田畑アキより採録。
1977	9	萩中美枝	「解題」〔葛野辰次郎「子守 歌 三題」〕	『アイヌ文化』第3号、23ペー ジ	アイヌ無形文化伝承保存会	
1977	9	萩中美枝	「ひとつの地名 : オタスッ 考」	『アイヌ文化』第3号、24～30 ページ	アイヌ無形文化伝承保存会	
1977	9	萩中美枝	「ユーカラについて」	上田正昭(編)『日本古代文 化の探求 古事記』	社会思想社	

年	月	編著者	表題	所収(巻号)	発行所	摘要、備考
1978	3	萩中美枝	「神々と、サコロベと八重さんと」	『北海タイムス』1978年3月7日付け	北海タイムス社	八重九郎追悼文。再掲『アイヌ文化』第4号(1978年4月)。
1978	4	萩中美枝	「神々と、サコロベと八重さんと」	『アイヌ文化』第4号、2～5ページ	アイヌ無形文化伝承保存会	八重九郎追悼文。表紙タイトルは「神々と、サコロベと八重さん」。初出は『北海タイムス』1978年3月7日付け。
1978	4	萩中美枝	「解説」〔栄吉、秋田春蔵(筆録)、栄貞蔵(補足)「イノソノイタク(祈詞)」〕	『アイヌ文化』第4号、34～36ページ	アイヌ無形文化伝承保存会	
1978	6	萩中美枝(執筆)	『サコロベの世界』		札幌テレビ放送	監修高倉新一郎、編集委員藤本英夫、岡田宏明、鈴木輝志。
1978	8	萩中美枝	「写真とその解説」	『北海道の文化』第39号、8～9ページ	北海道文化財保護協会	山田秀三「八重九郎翁を偲んで」に添えられている。
1980	2	萩中美枝	「地名調査同行記 抄」	『北海道の文化』第42号、55～63ページ	北海道文化財保護協会	山田秀三先生北海道文化賞受賞記念特集号。
1980	5	萩中美枝	「アイヌ文学に現われるチャシ」	創史社(編)『日本城郭大系 第1巻 北海道・沖縄』、208～211ページ	新人物往来社	
1980	5	萩中美枝	「星の伝承者との邂逅と心の重み／一貫した従来の文献の問題点を掘り下げる姿勢」〔末岡外美男『アイヌの星』書評〕	『読書北海道』第32号、3面	北海道読書新聞社	1995年縮刷版刊行。
1980	7	萩中美枝	『アイヌの文学 ユーカラへの招待 北の教養選書1』		北海道出版企画センター	
1980	9	萩中美枝	「ユーカラへのいざない」	『月刊文化財』第204号、31～35ページ	第一法規出版	
1980	12	萩中美枝	「背中で語ることば : 知里真志保と私①」	『人間雑誌』第5号、94～97ページ	草風館	
1981	3	萩中美枝(訳)	「ウサギの神の自叙伝(イソポ ヤイエ ユーカラ)」	アイヌ無形文化伝承保存会(編)『神々の物語 アイヌ無形民俗文化財記録第1輯』、1～12ページ	アイヌ無形文化伝承保存会	語り八重九郎、解題及び訳注は萩中美枝。2006年再版。
1981	3	萩中美枝(訳)	「カムイユーカラ」	アイヌ無形文化伝承保存会(編)『神々の物語 アイヌ無形民俗文化財記録第1輯』、13～20ページ	アイヌ無形文化伝承保存会	語り上野ムイテクン、解題及び訳注は萩中美枝
1981	3	萩中美枝	「背中で語ることば : 知里真志保と私②」	『人間雑誌』第6号、181～184ページ	草風館	
1981	3	萩中美枝	「アイヌのオオウバユリの鱗茎加工」	「北方言語・文化研究会成果報告(6)」『早稲田大学語学教育研究所紀要』第22号、102～104ページ。	早稲田大学語学教育研究所	1980年6月28日例会報告の要旨。

年	月	編著者	表題	所収(巻号)	発行所	摘要、備考
1981	6	萩中美枝	「背中で語ることば : 知里真志保と私③」	『人間雑誌』第7号、173～178ページ	草風館	
1981	7	萩中美枝	「にぎり水・さがれ・水・さがれ/鉛筆を削りながら アイヌのあそびと女の夏」	『CARD AGE』第117号、38～39ページ	エイチ・シー・ビー	
1981	8	萩中美枝	「アイヌ祭儀」「アイヌの住まい」「アイヌの通過儀礼」「アイヌの天文観」「アイヌの方位観」「アイヌの暦日観」「アイヌモシリ」「イトクバ」「ウツソロ」「熊まつり」	北海道新聞社(編)『北海道大百科事典 上巻』、8、16、18～19、19、21、28～29、145、186、569～570ページ	北海道新聞社	
1981	8	萩中美枝	「八重九郎」	北海道新聞社(編)『北海道大百科事典 下巻』、815ページ	北海道新聞社	再録:『北海道歴史人物事典』北海道新聞社、1993年(執筆者名記載なし、一部の記述は同社により改められている)。
1981	9	萩中美枝	「背中で語ることば : 知里真志保と私④」	『人間雑誌』第8号、199～204ページ	草風館	
1981	11	萩中美枝	「アイヌアナクネピリカ : 知里真志保の残したノート」	木原直彦(著者代表)『北海道文学全集 別巻 北海道の風土と文学』、74～83ページ	立風書房	初出は『北方文芸』第5巻第2号、1972年2月。
1981	11	萩中美枝	「ユーカラの中の女」	『北方言語・文化研究会成果報告(7)』『早稲田大学語学教育研究所紀要』第23号、71～75ページ。	早稲田大学語学教育研究所	1980年10月4日例会報告の要旨。
1981	12	萩中美枝	「背中で語ることば : 知里真志保と私⑤」	『人間雑誌』第9号、113～117ページ	草風館	
1982	3	萩中美枝(訳)	「舟になる木の神が自らを物語る」	アイヌ無形文化伝承保存会(編)『英雄の物語 アイヌ無形民俗文化財記録第2輯』、251～263ページ	アイヌ無形文化伝承保存会	語り八重九郎、解題及び訳注は萩中美枝(所収書中に担当者名記載なし。本件は萩中美枝氏への口頭での確認による)。
1982	3	萩中美枝	「幸恵ノートに関する覚え書」「解題」「凡例」	北海道教育庁社会教育部文化課(編)『知里幸恵ノート 昭和56年度アイヌ民俗文化財調査報告書(口承文芸シリーズ1)』、1～4、5～16、17ページ	北海道教育委員会	「解題」は無記名。
1982	5	萩中美枝	「ユーカラと女」	『口承文芸研究』第5号、26～31ページ	日本口承文芸学会	『北海道の文化』第47号に再掲。
1982	5	萩中美枝	「ユーカラと地名」	『柳田国男没後20周年記念シンポジウム : 柳田学の継承と展開・全国地名研究者大会』、62～63ページ	日本地名研究所、川崎市	
1982	9	萩中美枝	「ユーカラと女」	『北海道の文化』第47号、27～33ページ	北海道文化財保護協会	初出は『口承文芸研究』第5号。
1982	12	萩中美枝	「神々しいお顔」	『アイヌ語地名の研究 山田秀三著作集 月報』1号(『くさのかぜ』4号)、4～6ページ	草風館	

年	月	編著者	表題	所収(巻号)	発行所	摘要、備考
1983	3	萩中美枝、亀尾繁子、畑井朝子	「アイヌの祭事における馳走について : 酒造りの工程と儀礼」	『北海道の文化』第48号、16～24ページ	北海道文化財保護協会	目次の著者名は「アイヌの食文化研究会」。
1983	3	萩中美枝(訳)	「マッユーカラ けものを司る神が自らを物語る」	アイヌ無形文化伝承保存会(編)『人々の物語 アイヌ無形民俗文化財記録第3輯』、161～175ページ	アイヌ無形文化伝承保存会	語り八重九郎、解題及び訳注は萩中美枝。
1983	3	萩中美枝	「解題」「凡例」「幸恵ノートに関する覚え書」	北海道教育庁社会教育部文化課(編)『知里幸恵ノート 昭和57年度アイヌ民俗文化財調査報告書(口承文芸シリーズⅡ)』、1～5、95～98ページ	北海道教育委員会	「解題」は無記名。「幸恵ノートに関する覚え書」は再録。
1983	3	萩中美枝	「北の民具」	『北海道新聞』1983年3月3、17、24日付朝刊〔3回連載〕	北海道新聞社	「モウル(アイヌの女性用肌着)」「シンタ(ゆりかご)」「穂摘み具」の3回。
1983	5	萩中美枝	「わたしが選んだアイヌの七草」	『北海道新聞』1983年5月4、5、7、8～14日付朝刊〔10回連載〕	北海道新聞社	「フクジュソウ」、「フキ」(上)(下)、「ギョウジャニンニク」、「タラノキ」、「ヨモギ」(上)(下)、「エゾエンゴサクほか」、「オオウバユリ」(上)(下)の10回。
1983	8	萩中美枝	「[読む] 砂沢クラ著/「私の一代の思い出 クスクップ・オルシベ」/初めての原文対訳」	『北海道新聞』1983年8月30日付朝刊	北海道新聞社	
1983	9	萩中美枝	「世界の中のアイヌ民話」	『北海道新聞』1983年9月12～14、16、17、19、20日付夕刊〔7回連載〕	北海道新聞社	「月のはなし」(上)(下)、「神と人の結婚」、「羽衣伝説」、「人と動物の結婚」、「植物と人のはなし」、「上の者下の者」の7回。
1983	10	萩中美枝(訳)	「オタスツピとが自らを物語ったトウイタク」	アイヌ無形文化伝承保存会(編)『アイヌの民話1』、5～15ページ	アイヌ無形文化伝承保存会	語り八重九郎、解題及び訳注は萩中美枝。
1984	1	萩中美枝	「知里幸恵の愛と死/初公開された日記に思う」	『北海道新聞』1984年1月30日付夕刊。	北海道新聞社	
1984	3	萩中美枝	〔表紙写真説明〕(「シマフロウのまつり」)	『北海道の文化』第50号、表紙裏	北海道文化財保護協会	写真撮影は掛川源一郎。
1984	3	萩中美枝	「トコロからのレポート〈一〉」	『北海道の文化』第50号、45～47ページ	北海道文化財保護協会	
1984	3	萩中美枝	「解題」「凡例」「幸恵ノートに関する覚え書」	北海道教育庁社会教育部文化課(編)『知里幸恵ノート 昭和58年度アイヌ民俗文化報告書(口承文芸シリーズ3)』、1～6、7、85～89ページ	北海道教育委員会	「幸恵ノートに関する覚え書」は再録。
1984	7	萩中美枝	「アイヌの口承文芸に現われる地名」	河野広道博士没後二十年記念論集文集刊行会(編)『河野広道博士没後二十年記念論文集』、169～178ページ	北海道出版企画センター	
1984	10	萩中美枝	「[読む] 茅辺かのう著「アイヌの世界に生きる」/どう伝えるか話し手の真実」	『北海道新聞』1984年10月16日付朝刊	北海道新聞社	

年	月	編著者	表題	所収(巻号)	発行所	摘要、備考
1985	1	萩中美枝	「神々のユーカラ」	『ユリイカ』第17巻第1号、228～233ページ	青土社	特集：日本の神話。
1985	2	萩中美枝	「【コラム】 アイヌのことば遊び」	『言語』第14巻第2号、67ページ	大修館書店	特集：アイヌの言語と文化（言語篇）。
1985	3	萩中美枝	「聞く文学 ユーカラ」	『言語』第14巻第3号、48～53ページ	大修館書店	特集：アイヌの言語と文化（文化篇）。
1985	3	萩中美枝	「常呂からのレポート (2) オイナ その一」	『北海道の文化』第52号、16～20ページ	北海道文化財保護協会	
1985	3	萩中美枝、畑井朝子	「北方民族のまつりにおける馳走について」	『北海道の文化』第52号、28～40ページ	北海道文化財保護協会	
1985	3	萩中美枝	「解題」「凡例」「幸恵ノートに関する覚え書」	北海道教育庁社会教育部文化課(編)『知里幸恵ノート 昭和59年度アイヌ民俗文化財調査報告書(口承文芸シリーズIV)』、1～8、9、87～91ページ	北海道教育委員会	全て無記名。「幸恵ノートに関する覚え書」は再録。
1985	5	萩中美枝	「アイヌの食糧採取」「アイヌのシマフクロウ送り」「アイヌの熊送り」「アイヌの漁法」	森浩一(著者代表)『日本民族文化大系 第13巻 技術と民俗(上) 海と山の生活技術誌』、59～61、207、208～209、342～344ページ	小学館	
1985	9	萩中美枝 (M.HAGINAKA)	「OYNA AS AN AINU ART FORM IN THE AINU ORAL TRADITION」	『Proceedings of the International Symposium on B.Pilsudski's Phonographic Records and the Ainu Culture』、236～239ページ	北海道大学 (Hokkaido University)	
1985	9	萩中美枝	「アイヌ文化の中の巨人と小人」	『季刊 自然と文化』10、42～43ページ	日本ナショナルトラスト	
1986	2	萩中美枝	「北海道の水と木の民俗」	和田文夫(著者代表)『北海道・東北地方の水と木の民俗』、11～22ページ	明玄書房	第3部「木の民俗(和人)」は小林和夫執筆か。
1986	3	萩中美枝	「常呂からのレポート (三) オイナ その二」	『北海道の文化』54号、32～35ページ	北海道文化財保護協会	
1986	3	萩中美枝	「解題」「梗概」「凡例」	北海道教育庁社会教育部文化課(編)『知里幸恵ノート 昭和60年度アイヌ民俗文化財調査報告書(口承文芸シリーズ5)』、1～7、8～9、10ページ	北海道教育委員会	全て無記名。
1986	5	萩中美枝	「ユーカラにあらわれるハヨクペ」	『口承文芸研究』第9号、53～58ページ	日本口承文芸学会	
1987	2	萩中美枝	「金田一京助」「知里真志保」	石川栄吉ほか(編)『文化人類学事典』、215、487ページ	弘文堂	1994年縮刷版発行。

年	月	編著者	表題	所収(巻号)	発行所	摘要、備考
1987	3	萩中美枝ほか	「B.ピウスツキ蠟管の録音内容」	加藤九祐、小谷凱宣(編)『国立民族学博物館研究報告別冊 5号 ピウスツキ資料と北方諸民族文化の研究』、207～266ページ	国立民族学博物館	「言語・音楽班」メンバー12名による共同調査。メンバー中に萩中美枝。報告とりまとめは村崎恭子によるとあり。
1987	3	萩中美枝	「アイヌの口承文芸オイナ」	加藤九祐、小谷凱宣(編)『国立民族学博物館研究報告別冊 5号 ピウスツキ資料と北方諸民族文化の研究』、389～403ページ	国立民族学博物館	
1987	3	萩中美枝	「雪草履の旅」	『北方研究会会報』第7号、23ページ	北方研究会	金谷フサ氏の訃報に接したことなど自身の近況を記したもの。
1987	3	萩中美枝	「久保寺逸彦ノート“KUTUNE SHIRKA”について」	北海道教育庁社会教育部文化課(編)『久保寺逸彦ノート 昭和61年度 アイヌ民俗文化財調査報告書(口承文芸シリーズ6)』、1～7ページ	北海道教育委員会	
1987	3	萩中美枝ほか(編)	『昭和61年度 アイヌ衣服調査報告書(Ⅱ) 樺太アイヌが伝承する衣文化1』		北海道教育委員会	奥付の編者名は北海道教育庁社会教育部文化課であるが、調査担当者は萩中美枝、宇田川洋、宇田川倫、畠山歌子。原稿及び作業の分担は凡例に記載あり。副題は表紙の記載に従う(奥付は「アイヌ女性が継承する衣文化」。2000年3月北海道ウタリ協会により増刷。
1988	3	萩中美枝	「久保寺逸彦ノート“KUTUNE SHIRKA”について(2)」	北海道教育庁社会教育部文化課(編)『久保寺逸彦ノート 昭和62年度アイヌ民俗文化財調査報告書(口承文芸シリーズVII)』、1～10ページ	北海道教育委員会	
1988	3	萩中美枝ほか(編)	『昭和62年度 アイヌ衣服調査報告書(Ⅲ) 樺太アイヌが伝承する衣文化2』		北海道教育委員会	奥付の編者名は北海道教育庁社会教育部文化課であるが、調査担当者は萩中美枝、宇田川洋、宇田川倫、畠山歌子。原稿及び作業の分担は凡例に記載あり。2000年3月北海道ウタリ協会により増刷。
1988	5	萩中美枝	「ユーカラ(北海道)」	『国文学 解釈と鑑賞』第53巻第5号、34～37ページ	至文堂	特集「列島の芸能 : 日本人のこころ」。
1988	7	萩中美枝	「アイヌと木の文化」	札幌学院大学人文学部(編)『北海道・森と木の文化〈公開講座〉北海道文化論』、89～123ページ	札幌学院大学生活協同組合	1987年9月7～12日に札幌学院大学人文学部が開催した公開講座「北海道文化論 北海道・森と木の文化」での講演記録。
1988	12	萩中美枝	「空知大滝随想 : ふたつの悲鳴」	『松浦武四郎研究会会誌』第8・9合併号、52～54ページ	松浦武四郎研究会	没後100年記念特輯。
1989	3	萩中美枝ほか(編)	『昭和63年度 アイヌ衣服調査報告書(Ⅳ) 樺太アイヌが伝承する衣文化3』		北海道教育委員会	奥付の編者名は北海道教育庁社会教育部文化課であるが、調査担当者は萩中美枝、宇田川洋、宇田川倫、畠山歌子。原稿及び作業の分担は凡例に記載あり。2000年3月北海道ウタリ協会により増刷。
1989	3	萩中美枝	「はじめに」「いわゆる貞操帯 : 制作方法と既存資料の紹介」「あとがき」	北海道教育庁社会教育部文化課(編)『昭和63年度 アイヌ衣服調査報告書(Ⅳ) 樺太アイヌが伝承する衣文化3』、3、12～22、68ページ	北海道教育委員会	これらの項目のみ執筆担当が明記されているので別記した。
1989	3	萩中美枝	「凡例に代えて」	北海道教育庁社会教育部文化課(編)『久保寺逸彦ノート 昭和63年度アイヌ民俗文化財調査報告書(口承文芸シリーズVIII)』、1～10ページ	北海道教育委員会	
1990	3	萩中美枝	[新刊紹介]『カムイユカラと昔話』／萱野茂著	『口承文芸研究』第12号、101ページ	日本口承文芸学会	

年	月	編著者	表題	所収(巻号)	発行所	摘要、備考
1990	3	萩中美枝	「凡例に代えて」	北海道教育庁社会教育部文化課(編)『久保寺逸彦ノート 平成元年度アイヌ民俗文化財調査報告書(口承文芸シリーズIX)』、1~12ページ	北海道教育委員会	
1990	3	萩中美枝	「[新刊紹介]『アイヌ神謡集』辞典/切替英雄著」	『口承文芸研究』第13号、122ページ	日本口承文芸学会	
1990	4	萩中美枝	「アイヌの文学 ユーカラへの誘い」	札幌学院大学人文学部(編)『アイヌ文化に学ぶ〈公開講座〉北海道文化論 アイヌ文化に学ぶ』、281~297ページ	札幌学院大学生活協同組合	1988年9月5~10日に札幌学院大学人文学部が開催した公開講座「北海道文化論 アイヌ文化に学ぶ」での講演記録。講演萩中美枝、カムイユーカラの語りは織田ステノ。
1991	1	萩中美枝	「[好きな言葉] わかれぢ」	『北海道新聞』1991年1月14日付朝刊、5面	北海道新聞社	
1991	3	萩中美枝	「知里幸恵のユーカラ」	『口承文芸研究』第14号、54~59ページ	日本口承文芸学会	
1991	3	萩中美枝	「解説」	北海道教育庁社会教育部文化課(編)『久保寺逸彦ノート 平成2年度アイヌ民俗文化財調査報告書(口承文芸シリーズX)』、2~6ページ	北海道教育委員会	
1991	4	萩中美枝	「あとがきにかえて」	静内町教育委員会(編)『静内地方の伝承I : 織田ステノの口承文芸(1)』、244~245ページ	静内町教育委員会	所収書全体の執筆も、古原敏弘、奥田統己との共同討議に基づいたものである旨、「凡例」に記載あり。
1991	5	萩中美枝	「コタンに生きた女たち : ユーカラからさぐる」	天理大学・天理教道友社(編)『ひとのこころ 第3期第5巻 アイヌのきもの』、158~162ページ	天理教道友社	
1991	6	萩中美枝	「アイヌの文化」	日本民俗研究大系編集委員会(編)『日本民俗研究大系 第1巻 方法論』、315~333ページ	國學院大學	
1991	9	萩中美枝	「口承文芸にみられるきもの」	『平成3年度 第8回企画展「アイヌの衣服文化」記念シンポジウム 講義資料』、12~16ページ	アイヌ民族博物館	シンポジウム講演記録は1994年3月発行。
1992	3	萩中美枝	「夫の跡をあるく」	村崎恭子(編)『サハリンとB.ピウスツキ B.ピウスツキ生誕125周年国際シンポジウム報告』、12ページ	ピウスツキをめぐる北方の旅実行委員会	
1992	3	萩中美枝	「あとがきにかえて」	静内町教育委員会(編)『静内地方の伝承II : 織田ステノの口承文芸(2)』、276~277ページ	静内町教育委員会	所収書全体の執筆も、古原敏弘、奥田統己、佐藤知己、深沢百合子との共同討議に基づいたものである旨、凡例に記載あり。
1992	3	萩中美枝	「久保寺先生のプロフィール」	北海道教育庁生涯学習部文化課(編)『久保寺逸彦編 アイヌ語・日本語辞典稿 平成3年度久保寺逸彦アイヌ語収録ノート調査報告書』、4ページ	北海道教育委員会	久保寺逸彦『アイヌ語・日本語辞典稿』(草風館、2020年)に再録。

年	月	編著者	表題	所収(巻号)	発行所	摘要、備考
1992	5	萩中美枝	「アイヌの口承文芸 : ユーカラとその周辺を探る」	岡田宏明・岡田淳子(編著)『北の人類学 : 環極北地域の文化と生態』、283~308ページ	アカデミア出版会	
1992	5	萩中美枝	「ウエネウサラに思う」	『ウエネウサラ』第10号、4~6ページ	ウエネウサラ同人	第10号記念号。
1992	11	萩中美枝	「はしがき」「樺太地方・金谷フサさんの暮らしと食べもの」「アイヌの酒つくり : 静内・阿寒」	萩中美枝ほか『聞き書 アイヌの食事 日本の食生活全集48』、1~4、142~153、162~169ページ。	農山漁村文化協会	
1992	11	萩中美枝、進藤貴美子	「アイヌの芸能」	諏訪春雄、菅井幸夫(編)『講座 日本の演劇1 日本演劇史の視点』、320~334ページ	勉誠社	
1993	3	萩中美枝	「あとがきにかえて」	静内町教育委員会(編)『静内地方の伝承III : 織田ステノの口承文芸(3)』、310~312ページ	静内町教育委員会	所収書全体の執筆も、古原敏弘、奥田統己、深沢百合子との共同討議に基づいたものである旨、凡例に記載あり。
1993	3	萩中美枝	「本文を読む前に」	北海道教育庁生涯学習部文化課(編)『平成4年度 八重九郎の伝承(アイヌ民俗文化財口承文芸シリーズ XI)』、2~11ページ。	北海道教育委員会	同書1ページ「父八重九郎について」は、八重九太郎述、萩中美枝記。
1993	3	萩中美枝	「アイヌ口承文学に関する断想」	岡田宏明(編)『環極北文化の比較研究』、148~151ページ	北海道大学文学部	文部省科学研究費補助金(総合研究A)成果報告書。
1993	7	萩中美枝	「八重九郎」	北海道新聞社(編)『北海道歴史人物事典』、387ページ	北海道新聞社	執筆者名記載なし。初出は北海道新聞社(編)『北海道大百科事典 下巻』(1981年)。本書への再録に当たり、一部の記述が同社により改められている
1994	1	萩中美枝	「ボンオタストウンクル : 北海の若き勇者」	『しにか』第5巻第1号、52~55ページ	大修館書店	特集「アジア英雄伝説:人々は物語に何を託したか」。
1994	2	萩中美枝	「知里真志保の「アイヌ研究」に思う」	北方言語研究者協会(編)『アイヌ語の集い : 知里真志保を継ぐ』、21~25ページ	北海道出版企画センター	1991年11月29-30日に開催された知里真志保没後30年記念シンポジウム「アイヌ語の集い」での発表をもとにしたもの。
1994	3	萩中美枝	「口承文芸にみられるきもの」	アイヌ民族博物館(編)『シンポジウム アイヌの衣服文化』、47~54ページ	アイヌ民族博物館	1991年9月10日にアイヌ民族博物館主催により開催されたシンポジウム「アイヌの衣服文化」における発表をもとにしたもの。
1994	3	萩中美枝(談)	[対談]「館長対談(パート2) IV “二人”で歩くアイヌ文化研究の道」	『とどまつ』第6号、6~13ページ	北海道開拓記念館・開拓の村文化振興協会	当時の北海道開拓記念館館長・渡邊佐武郎との対談。司会佐土根脩。
1994	3	萩中美枝	「出会いと別れ」	静内町教育委員会(編)『静内地方の伝承IV : 織田ステノの口承文芸(4)』、333~335ページ	静内町教育委員会	所収書全体の執筆も、古原敏弘、奥田統己、深沢百合子との共同討議に基づいたものである旨、凡例に記載あり。
1994	3	萩中美枝	「本文を読む前に」	北海道教育庁生涯学習部文化課(編)『平成5年度 八重九郎の伝承(2)(アイヌ民俗文化財口承文芸シリーズ XII)』、2~8ページ	北海道教育委員会	同書1ページ「父八重九郎について(II)」は、八重九太郎述、萩中美枝記。

年	月	編著者	表題	所収(巻号)	発行所	摘要、備考
1994	3	萩中美枝	「アイヌの女 その生き方」	『言語センター広報 Language Studies』第2号、85～88ページ	小樽商科大学言語センター	小樽商科大学国際先住民年記念講演会「北方先住民の過去と現在」講演録。
1994	7	萩中美枝	「人情と歌声に酔う」	『創立20周年記念誌 かもめのあしあと』、4～5ページ	忍路鯉場の会	
1994	9	萩中美枝	「女たちの息づかいを伝える地名」	貝塚爽平ほか(編)『日本の自然 地域編1 北海道』、138～139ページ	岩波書店	
1995	1	萩中美枝	「クコロアイヌ」	『伝え 日本口承文芸学会会報』第16号、1ページ	日本口承文芸学会	
1995	2	萩中美枝	「イヨマンテ」〔「儀礼に即した解説」執筆〕	『音と映像による 新世界民族音楽大系 解説書Ⅰ』、33～38ページ	平凡社(制作)、日本ビクター(発行)	「北・東アジア篇」中「日本・北海道」の「アイヌの音楽と舞踊」のうち、「イヨマンテ」の解説を谷本一之と分担執筆。「儀礼に即した解説」萩中美枝、「音楽・芸能についての解説」谷本一之。
1995	2	萩中美枝	「アイヌの舟をめぐって : 口承文芸の世界から」	『第9回特別展図録 北方民族の船 北の海をすすめ』、34～37ページ	北海道立北方民族博物館	
1995	3	萩中美枝	「あとがきにかえて」	静内町教育委員会(編)『静内地方の伝承Ⅴ : 織田ステノの口承文芸(5)』、497～499ページ	静内町教育委員会	所収書全体の執筆も、古原敏弘、奥田統己、深沢百合子との共同討議に基づいたものである旨、凡例に記載あり。
1995	3	萩中美枝	「本文を読む前に」	北海道教育庁生涯学習部文化課(編)『平成6年度 八重九郎の伝承(3) (アイヌ民俗文化財口承文芸シリーズ13)』、2～8ページ。	北海道教育委員会	同書1ページ「父八重九郎について(Ⅲ)」は、八重九太郎述、萩中美枝記。
1995	6	萩中美枝	「日本口承文芸学会 初の道大会を終えて」	『北海道新聞』1995年6月16日付け夕刊、9面	北海道新聞社	
1995	11	萩中美枝	「ユーカラと工芸」	佐々木利和『日本の美術354 アイヌの工芸』、94～98ページ	至文堂	
1996	2	萩中美枝、宇田川洋(編)	『北海道東部に残る 樺太アイヌ文化Ⅰ』		常呂町樺太アイヌ文化保存会	内容は「調査の経過」(萩中美枝)、「藤山ハルのトンコリ演奏法について(1)」「藤山ハルのトンコリ演奏の内容について」(千葉伸彦)。
1996	2	萩中美枝	「調査の経過」	萩中美枝・宇田川洋(編)『北海道東部に残る 樺太アイヌ文化』	常呂町樺太アイヌ文化保存会	
1996	3	萩中美枝	「本文を読む前に」	北海道教育庁生涯学習部文化課(編)『平成7年度 八重九郎の伝承(4) (アイヌ民俗文化財口承文芸シリーズ XIV)』、2～4ページ	北海道教育委員会	同書1ページ「父八重九郎について(Ⅳ)」は、八重九太郎述、萩中美枝記。
1996	3	萩中美枝	「アイヌの歌謡」	『口承文芸研究』第19号、90～101ページ	日本口承文芸学会	

年	月	編著者	表題	所収(巻号)	発行所	摘要、備考
1996	4	萩中美枝	「神謡の中の鮭」	『日本民俗文化資料集成 編集のしおり』18〔第19巻「鮭・鱒の民俗」附録〕、1～5ページ	三一書房	
1997	3	萩中美枝	「アイヌのまつり歌」	『北海道民族学会通信』'96-1・2、7～8ページ	北海道民族学会	1996年度第2回研究会(1996年12月14日、小樽商科大学)発表要旨。
1997	3	萩中美枝	「本文を読む前に」	北海道教育庁生涯学習部文化課(編)『平成8年度 八重九郎の伝承(5)(アイヌ民俗文化財口承文芸シリーズ X V)』、2～5ページ	北海道教育委員会	同書1ページ「父八重九郎について(V)」は、八重九太郎述、萩中美枝記。
1997	3	萩中美枝	「知里の遺したノートから」	『岩波講座日本文学史 月報』17、3～6ページ	岩波書店	講座第17巻「口承文芸2・アイヌ文学」の付録。
1998	3	萩中美枝	「本文を読む前に」	北海道教育庁生涯学習部文化課(編)『平成9年度 八重九郎の伝承(6)(アイヌ民俗文化財口承文芸シリーズ X VI)』、1～2ページ	北海道教育委員会	
1998	10	萩中美枝	「アイヌ民族の家族と人の一生」	北の生活文庫企画編集会議(編)『北の生活文庫4 北海道の家族と人の一生』、29～84ページ	北海道	同年11月、北海道新聞社より市販発行。
1999	3	萩中美枝	「本文を読む前に」	北海道教育庁生涯学習部文化課(編)『平成10年度 八重九郎の伝承(7)(アイヌ民俗文化財口承文芸シリーズ X VII)』、1～4ページ	北海道教育委員会	同書巻頭「父八重九郎について(VI)」は、八重九太郎述、萩中美枝記。
1999	3	萩中美枝	「アイヌの口承文芸」	『平成10年度 普及啓発セミナー報告集』、138～141ページ	アイヌ文化振興・研究推進機構	アイヌ文化振興・研究推進機構主催普及啓発セミナー(1998年12月2、11、16日)での講演記録。
1999	12	萩中美枝	「アイヌ英雄叙事詩サコロベ」	『国文学 解釈と教材の研究』第44巻 第14号、106～110ページ	學燈社	特集「昔話 : 通底するフォーク・テイルズ」中の「語り・語り手に着目する」中の一論文。
1999	-	萩中美枝	「Yukar : Epics of Heroes」	『AINU : Spirit of Northern People』、278～280ページ	National Museum of Natural History, Smithsonian Institution	
2000	3	萩中美枝	「本文を読む前に」	北海道教育庁生涯学習部文化課(編)『平成11年度 八重九郎の伝承(8)(アイヌ民俗文化財口承文芸シリーズ X VIII)』、2～3ページ	北海道教育委員会	同書1ページ「父八重九郎について(VIII)〔ママ〕」は、八重九太郎述、萩中美枝記。
2000	4	萩中美枝	「ユーカラ」	福田アジオほか(編)『日本民俗大辞典 下』、756ページ	吉川弘文館	『精選 日本民俗辞典』(吉川弘文館、2006年)に再録。
2000	7	萩中美枝	「たべる 女の役割」	アイヌ文化振興・研究推進機構(編)『馬場・児玉コレクションにみる 北の民 アイヌの世界』、86～87ページ	アイヌ文化振興・研究推進機構	87ページは英文。2000年7月14日から8月20日まで広島県立歴史民俗資料館で、9月9日から10月9日まで名古屋市博物館で開催された展示会図録。2000年9月には名古屋市博物館による発行版もあり。
2001	3	萩中美枝	「本文を読む前に」	北海道教育庁生涯学習部文化課編『平成12年度 八重九郎の伝承(9)(アイヌ民俗文化財口承文芸シリーズ XIX)』、3～4ページ	北海道教育委員会	同書1ページ「父八重九郎について(IX)」は、八重九太郎述、萩中美枝記。

年	月	編著者	表題	所収(巻号)	発行所	摘要、備考
2001	3	萩中美枝	「北海道の文化」創刊のころ」	『北海道の文化』第73号、10～11ページ	北海道文化財保護協会	小特集「協会四〇年を回顧して」中の一文。
2001	3	萩中美枝	「アイヌの口承文芸：語り手たちの意識の推移」	北海道立北方民族博物館(編)『第15回北方民族文化シンポジウム報告：北方諸民族文化のなかのアイヌ文化 儀礼・信仰・芸能をめぐって』、19～20ページ	北方文化振興協会	2000年10月26～27日、北海道立北方民族博物館による同名のシンポジウムにおける発表記録。
2001	9	萩中美枝、河野本道	「Aynuの下紐に関する覚書 I：Retar-hayによるPon-kutのできるまで」	河野本道『装いのアイヌ文化史：北方周辺域の衣文化と共に』	北海道出版企画センター	『北海道の文化』第13号(北海道文化財保護協会、1967年)の再録。表題の中のローマ字にカタカナのルビが付けられている。また末尾に「本編後記」として「内容を一部加除訂正した」とあり。
2001	10	萩中美枝	「アイヌ語のカナ表記についての試み」	ゆまに書房編集部(編)『アイヌ語考② 音韻・アクセント/語彙 I』、730～738ページ	ゆまに書房	『北海道の文化』第29号からの再掲。
2001	11	萩中美枝	「知里真志保とその家族」	『白い国の詩』第543号、4～11ページ	東北電力株式会社地域交流部	再録：『アイヌの歴史と文化 II』創童舎、2004年3月。
2002	3	萩中美枝	「知里真志保のプロフィール」	北海道教育庁生涯学習部文化課(編)『平成13年度 知里真志保フィールドノート(1)』、1～14ページ	北海道教育委員会	執筆者名表示欠。
2002	8	萩中美枝	「知里幸恵のユーカラ：語る文学と書く文学」	北海道文学館(編)『大自然に抱擁されて…：知里幸恵『アイヌ神謡集』の世界へ』、19～23ページ	北海道立文学館	所収書は、北海道立文学館にて開催された特別企画展の図録。再録：『知里幸恵『アイヌ神謡集』への道』(東京書籍、2003年9月)。
2003	3	萩中美枝	「知里真志保のプロフィール」	北海道教育委員会生涯学習部文化課(編)『平成14年度 知里真志保フィールドノート(2)』、1～2ページ	北海道教育委員会	
2003	3	萩中美枝	「ひとつ懐」	『伝え 日本口承文芸学会会報』第32号、1ページ	日本口承文芸学会	
2003	9	萩中美枝	「知里幸恵のユーカラ：語る文学と書く文学」	北海道文学館(編)『知里幸恵「アイヌ神謡集」への道』、67～71ページ	東京書籍	初出は『大自然に抱擁されて…：知里幸恵『アイヌ神謡集』の世界へ』北海道立文学館、2002年8月
2004	3	萩中美枝	「知里真志保とその家族」	榎森進(編)『アイヌの歴史と文化II』、200～207ページ	創童舎	初出は『白い国の詩』通巻543号、2001年11月。
2004	3	萩中美枝	「知里真志保のプロフィール」	北海道教育庁生涯学習部文化課(編)『平成15年度 知里真志保フィールドノート(3)』、1～2ページ。	北海道教育委員会	
2004	10	萩中美枝、柏谷恵一、須摩トヨ、佐々木利和	〔座談会〕「山田秀三を語る」	北海道立アイヌ民族文化研究センター(編)『アイヌ語地名を歩く：山田秀三の地名研究から』、39～47ページ	北海道立アイヌ民族文化研究センター	2004年8月23日に北海道立アイヌ民族文化研究センターにて開催した座談会の記録。『アイヌ語地名を歩く：山田秀三の地名研究から 2005・旭川』(北海道立アイヌ民族文化研究センター、2005年)及び2006、2007年の各年度の図録に再録。
2005	3	萩中美枝	「英雄叙事詩の伝承」	『平成16年度普及啓発セミナー報告集』、127～129ページ	財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構	財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構平成16年度普及啓発セミナー(2004年7月28日札幌、8月4日大阪)での講演記録。

年	月	編著者	表題	所収(巻号)	発行所	摘要、備考
2005	3	萩中美枝	「知里真志保のプロフィール」	北海道教育庁生涯学習部文化課(編)『平成16年度 知里真志保フィールドノート(4)』、1~5ページ。	北海道教育委員会	萩中美枝談、近藤由紀編。
2005	3	萩中美枝	「山田秀三と知里真志保の地名調査」	『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』11号、193~199ページ	北海道立アイヌ民族文化研究センター	2004年11月3日、北海道立アイヌ民族文化研究センター主催により北海道立文学館にて開催した講演会「アイヌ語地名研究をめぐって」における講演記録。このほか質疑応答の記録もあり。
2005	9	萩中美枝、藤村久和、村木美幸	「狩猟と採集の民 アイヌの食」	『現代農業 別冊 鳥害・獣害 こうして防ぐ』139~145ページ	農山漁村文化協会	同書Part3「野性鳥獣と食」の中の一項目。同社刊『聞き書 アイヌの食事』から「はしがき」(萩中美枝)、「陸海獣の食べ方」(藤村久和)、「熊の霊送りと料理」(村木美幸)を転載したもの。
2006	3	萩中美枝	「ユーカラ」	福田アジオほか(編)『精選 日本民俗辞典』	吉川弘文館	2000年4月刊『日本民俗大辞典下』からの再録。
2006	3	萩中美枝	「知里真志保のプロフィール」	北海道教育庁生涯学習部文化課(編)『平成17年度 知里真志保フィールドノート(5)』、1~3ページ。	北海道教育委員会	
2006	7	萩中美枝	「すべてのものに神宿る : 清廉なアイヌの食文化」	『伝承写真館 日本の食文化 1 北海道・東北1』、40~42ページ	農山漁村文化協会	過年度刊行からの転載
2007	2	萩中美枝	「知里真志保と金田一京助の思い出」	石井正己編著『佐々木喜善資料の調査と公開に関する基礎的研究 科研費研究成果報告書』、77~78ページ	東京学芸大学	
2007	3	萩中美枝	「知里真志保と金田一京助の思い出」	石井正己編著『植民地の昔話の採集と教育に関する基礎的研究 広域科学教科教育学研究経費報告書』、185~187ページ	東京学芸大学	2007年2月刊行掲載の再掲。
2007	11	萩中美枝	『アイヌ文化への招待 : 女性と口承文芸』		三弥井書店	
2008	1	萩中美枝	「アイヌの語り手」	日本口承文芸学会(編)『シリーズことばの世界 第2巻 かたる』70~71ページ	三弥井書店	
2009	5	萩中美枝	「夫・知里真志保と私に行く道を示して下さった方々」	北海道立アイヌ民族文化研究センター・北海道立文学館・財団法人北海道文学館(編)『語り、継ぐ アイヌ口承文芸の世界』、45~48ページ	北海道文学館	
2010	1	萩中美枝(聞き手:竹内渉)	〔講演記録〕「夫 知里真志保」	小坂博宣(編)『知里真志保 アイヌの言霊に導かれて』、174~179ページ	知里真志保を語る会	
2010	3	萩中美枝(石井正己編)	『アイヌ文学こぼればなし』		東京学芸大学	
2020	5	萩中美枝	「久保寺先生のプロフィール」	久保寺逸彦『アイヌ語・日本語辞典稿』、vii~viiiページ	草風館	初出は北海道教育庁生涯学習部文化課(編)『久保寺逸彦編 アイヌ語・日本語辞典稿 平成3年度久保寺逸彦アイヌ語収録ノート調査報告書』(北海道教育委員会、1992年)



### 3 著書の主要目次

#### 凡例

- ・萩中美枝氏の主著である『アイヌの文学 ユーカラへの招待』のほか、主要な著作を編んだ『アイヌ文化への招待 女性と口承文芸』及び『アイヌ文学こぼれぼなし』の目次を転記した。
- ・萩中美枝氏以外の者による執筆・編集の箇所のみ、( ) 内にその著者等の名を記した。

#### ○アイヌの文学 ユーカラへの招待

- ・口絵（「熊狩りにでかける八重さん（昭和48年）」ほか4点）
- ・序 ——ユーカラへの招待をお受けする（大林太良）
- ・はじめに
- ・ユーカラへのアプローチ
- ・神々のユーカラ  
国の神——火の神／村の神——しまふくろう／山の王——熊／沖の王——しゃち／しくじった神々／アイヌの始祖神、巨人／折返し
- ・人間のユーカラ  
語部ユーカラクル／物語の展開／八重さんのサコロベ／ヒーローの住む城と地名
- ・ユーカラの現状
- ・その他の叙事文学
- ・八重さんを偲んで  
祈詞／説話／民族誌ノート
- ・おわりに

#### ○アイヌ文化への招待 女性と口承文芸

- ・この本のはじめに ——アイヌ・女性・口承文芸——（石井正己）
- ・I アイヌの叙事詩  
ユーカラへの招待  
サコロベの世界  
八重九郎の伝承  
アイヌの口承文学オイナ
- ・II アイヌの女性たち  
アイヌ民族の家族と人の一生  
女の生きた道——アイヌのむかし——  
コタンに生きた女たち——ユーカラからさぐる——  
ユーカラと女  
女たちの息づかいを伝える地名
- ・III アイヌの伝承文化  
世界の中のアイヌ民話  
ユーカラにあらわれるハヨクペ  
アイヌの口承文芸に現れる地名  
わたしが選んだアイヌの七草  
樺太地方・金谷フサさんの暮らしと食べもの  
アイヌの酒づくり——静内・阿寒
- ・IV 知里真志保と知里幸恵  
背中で語ることば——知里真志保と私——  
アイヌアナクネピリカー——知里真志保の残したノート——  
幸恵ノートに関する覚え書  
知里幸恵のユーカラ
- ・初出一覧
- ・萩中美枝書誌（石井正己・小川正人編）
- ・この本のおわりに

○アイヌ文学こぼればなし

- ・さんべい汁
- ・「ユーカラの世界」ロケのこと
- ・ホエについて
- ・焼いてしまったルイベ
- ・鳥の舞
- ・幸恵と真志保
- ・ユーカラに流した涙—金田一先生のこと—
- ・折れたムックリ
- ・アイヌのウバユリ加工について
- ・十月の風
- ・神々しいお顔
- ・北の民具
- ・砂沢クラ著『私の一代の思い出—クスクップ°オルシベ』
- ・知里幸恵の愛と死—初公開された日記に思う
- ・茅部かろう著『アイヌの世界に生きる』
- ・切替英雄著『『アイヌ神謡集』辞典』
- ・わかれじ〔好きな言葉〕
- ・夫の跡をあるく
- ・久保寺先生のプロフィール
- ・クコロアイヌ
- ・アイヌのまつり歌
- ・『北海道の文化』創刊のころ
- ・ひとつ懐
- ・萩中美枝書誌（補遺）（小川正人）
- ・編集後記（石井正己）

## Bibliography of HAGINAKA Mie

OGAWA Masahito

---

A Catalog of the works of HAGINAKA Mie(1927~2021), one of the leading person of the Ainu Oral Literature and Ainu Folklore.

---

OGAWA Masahito : Director, Ainu Culture Research Center, Hokkaido Museum

---

